

樺太の見える島く利尻山を滑る

日時五月五〜七日

メンバー 福田単独

北海道の最北端稚内よりニヤツ72時
を回つた船は二時間後に鴛泊の港へ到
着した。鴛泊の街は、厳しい寒波の爲に
海は荒れて、うす黒い灰色の街にはほろり
ほろりと氷がけにバラツク風の家がわすかに
あるだけで、いかにも辺境の地へ来たという感
じがひしひしと胸を打つ。又利尻の山は
真黒な雲につつまれて、その一部すら消滅し
る事はできません。しかも、国民宿舎
で一泊する事にほして、東京を出發して十
日もたつて長旅の疲れが、出た。このようが
宿つくと、ついでに横になって夕食、時間によ
目とす可具合した。

翌、五七日 朝三時起床。四時、薄す明か
るなつた鴛泊の街を後に凍った雪道を
利尻山へ向かい出す。単独行の時はいさ
ぞいですが、重い気持につつまれて出發は、
これでも利尻神社と過ぎる辺りから、い
つもペースを取りとどして一気にホニ山と
まいて甘露水へ到着。ここよりスキー
で登山。タケカンバヤハンキの間を
斜登山とキツク、ターンを繰り返す事し
ばして傾斜も増えて来た。全山
ハミツカが霧氷になって、真冬の白馬
岳に登っている様な感じですが、只大変な
寒で、オーバーヤツとスポンジの上の毛の
ベストを着ても指先が痛い程です。

斜面がカチンカチンに凍って、どうしてもスキー
では登りません。しかも、靴でステップ
して登ります。靴先が23cm程掛かる
程度です。単独行の爲に荷を7分と、
ピッケルとアセニを稚内の駅にあづけてい
るのか、イヤイヤで降りません。しかも、強引に
長官山128m、真下まで下りました。足先の斜
面は、ぶつ海の近までつづいていて、ニヤツ
でスリッパでもはら、スキーのストックでは停め
られぬ。どうも早と考えたから、海流です。か
終りに登山を中止しました。単独行の爲に無
理も出来ません。

四時、雪がけを登り、スキーなら早いと
ので、最初は凍った斜面を慎重に斜
降していき、カンバの林に入ると雪
のやわらかくなつたので、木々をポールに見立て
て気をつけて下りつづけます。登りはホニ
山445mをまいて下りましたが、真北の稚泊
川と雪があるのが見えます。コースを
真北にとつて、まっすぐ海岸へ滑り下り、
途中、えん提が、雪が切れているので
しばらく小沢を歩いて下りました。突然、
人家の裏に出て、目の前には海が広がって
いました。大変綺麗な海で、石の階段
が、カマを渡り、もぐもぐ食べながら登れ
たか、とは言え、それでも振り返り振り返り
返り、利尻の山を見ながら、海辺の道をスキー
をかいて鴛泊の街へ歩いて帰りました。

福田